

司会： 黒潮町では平成 19 年から、社団法人高知県自治研究センターの庭先集荷実証実験が行われています。中山間地域の集落維持につながる取り組みの 1 つである、庭先集荷の実験が一番にこのかきせ川地域から始まりました。

## ⑦ 庭先集荷

J さん： 庭先集荷のビジネスサポーターとして、平成 19 年の 10 月より出荷サービスをさせていただいています。地域の人との関わり、直売所での関わり、そこで知り合いになったりすることがすごく気に入っています。

当初、「私は作ることが趣味なので売らない」と言っていた人たちも 1 回出すことによって出荷する喜びを分かっていたが、現在では集荷に行くたびに出荷している人がいます。現在、湊川と馬荷地区で 40 名余りの人が出荷をしています。

私たちは朝 5 時頃に起きて、最終の出荷場所に 6 時前には着くようにしています。旧大方町には 3 カ所の直売所があります。J A の直売所は朝 7 時に開店で、開店と同時に買い物に来るお客さん、それから持って行く人が同時に集まります。その時間帯に持っていった方が売れるので、その時間帯を目安に品物を預かっています。各集荷場所は納屋の軒先であったり、集会所であったり、それから出荷 BOX を自治研の方が準備してくれているので、その中に品物を入れていただき、受取伝票と引き替えに品物を預かるようにしています。いつも出荷される人がいない時には安否の確認をしたり、会った人に「誰々さんは最近出してないがやけど元気におるかね」ということも聞いたりしています。集荷場所は地域の人達の情報交換の場所にもなっています。

人間はいつまでも元気でいたいと思うものですが、特に高齢となるとその事が気になります。作物を作る、売る、小銭を稼ぐという生きがいがづくりで心身ともに健康でいられると思います。また、集荷をする日を間違えると出しても取りに来ないということがありますので、日にちの確認をしたり、品物の値段を考えたり、次は何を植えようかと頭を使うようにもなっていると思います。

これからはたくさんの野菜が出来る時期になるので、まだ出してない人は 1 点でもいいので出すようにしてほしいです。

K さん： 私は出荷をしている者ですが、J さんが私の所まで来てくれて、品物を出しています。週に 2 回楽しみにして、売れるだけ売ってもらおうと思っています。

L さん： 私も同じです。若い時は主人が持って行ってくれましたが、80 を過ぎて、どうしようかと思った時に、この話をいただき、それからは毎回楽しみに待っています。おかげで知らない間にお小遣いが増えていく感じで、楽しみながら

健康に繋がっていくのではないかと思います。「今は何ができよう、何が出よう（出ているのか）」とか、「いくらぐらいで売れようろうか」みたいな情報ももらってます。

知事： この黒潮町でやっておられる庭先集荷の話、本当に素晴らしいと思います。Jさんもテレビに何度か出られて（いるのを拝見して）、かなり献身的な形でやっておられると伺って、本当に素晴らしいと思います。実はこの庭先集荷の取り組みを、地域によってスタイルが変わるかもしれませんが、私は、県内に広げたいと思っています。黒潮町の職員に来ていただいて、県庁で勉強会をやらせていただいたぐらいなんです。作っている所と売り場を結ぶものが、高齢者の皆様が増えてきたら必要になります。例えば役場のいろんなサービスをくっつけることはできないだろうか、それからちょっとしたお世話。「これ持ってっちゃってくれんかね」とか、そういうのを全部一緒にした形のものを県内で作ることはできないかと。残念ながら採算面について難しいところがあり、どんどん県内で広がっていくという状況ではないと思いますが、他方、実験的に何カ所かでやることにしています。今、手を挙げていただいているところですが、残念ながらそんなにたくさんありません。

かなり献身的な働きがないとできないということを、多くの皆さんが分かっているんでしょう。だけど、もたらしている成果は素晴らしいと思います。ぜひこの黒潮町でJさんのやっている活動がいかにか素晴らしいかということをお皆さんに広めてください。私達もそうしたいと思っています。それで「俺らもやろう」という人が出てくることを期待しています。中山間地域の暮らしを守るだけでなく、福祉の面においても、ものすごい大切なことだと思っています。

Jさん： 福祉とは今まで与えられてきたものだけど、「産業福祉」ということで、自分が働いてお金を得る。与えられるだけでなく、自分から与える、そういう福祉をこれからは構築していくべきじゃないかと聞いて、確かにそうではないかと思っています。

知事： （県の高知型福祉の取組として）あつたかふれあいセンターを作っています。小規模多機能施設といいまして、1カ所でいろんな介護や、子育て支援や障害者の方のケアができるような施設。高知の中山間は、サービスを細切れにしたら利用者が少なくてうまくいきません。民間からも入ってこれないということになります。なので、1カ所で複数のサービスが全部できるようにしたらどうか。そうしたら人が集まり、うまくいくだろうと。これを今、県内30カ所で作ろうとしています。新しい高知型福祉の拠点です。こういう所とさっきの集荷、実際に

「対話と実行」座談会  
かきせ川地域づくり協議会  
庭先集荷

荷される方の所、市場をクルクルと繋いでいくようなシステムができるといいんじゃないかと思っています。こういうことは公的なことも含めて、県民の皆さんのお金を使うべき分野じゃないかと思っています。しかし、もう少し実験をして、どうやればうまくいくかということを勉強していく必要があると思っています。